

印西市 <sup>そ や く ぼ</sup> 曾谷窪遺跡

検出された遺構は、旧石器時代の遺物集中地点 1 か所 (1 万 3 千年前頃)、弥生時代後期の  
竪穴住居跡 5 軒 (約 1,900 年前～1,800 年前頃)、奈良・平安時代の竪穴住居跡 4 軒・土坑 3 基  
です (約 1,300 年前～1,100 年前頃)。

旧石器時代の遺物集中地点からは黒曜石の細石核(さいせつかく)が出土しました。細石核は  
細石刃(さいせきじん)を作った後に残ったものです。細石刃はカミソリの刃のようなもので、木や骨で  
作った槍(やり)の先端に何本も埋め込んで使われたと想定されています。

弥生時代の竪穴住居跡は楕円形で、写真のものは 5m×3m 程度の大きさです。

奈良・平安時代には、今回の調査地の近くに瓦を焼いた窯がありました。そこで焼かれた瓦  
は近くにある木下別所廃寺(きおろしべっしょはいじ)で使われたものですが、今回の調査で見つかった  
竪穴住居跡からも少し出土しています。

竪穴住居跡は横長の長方形のものと正方形のものが見つかりました。長方形のもの(写真①)  
は手前の両隅に大きな穴が掘られており、向かって右側の穴からは残りのよい土師器杯(はじきつ  
き)が出土しました。また正方形の竪穴住居跡(写真②)からは羽口(はぐち)※が見つかりました。

今回の調査範囲は狭い面積ですが、台地上には弥生時代や奈良・平安時代の集落が広  
がることがわかりました。

※鉄を加熱する時に使う鞆(ふいご)の送风管の先に付けた土製の管



旧石器時代 遺物集中地点



弥生時代の竪穴住居跡  
奥側の大きな穴は炉の跡



奈良・平安時代の竪穴住居跡①  
奥の穴のところにカマドがありますが、後世の穴により壊されています。



①の竪穴住居跡右手前の穴と出土土器



奈良・平安時代の竪穴住居跡②  
奥の中央にカマド  
規則的な4か所の穴は屋根を支える柱の穴